

タマネギべと病の発生条件について

兵庫県のタマネギは、玉太りも良く、高糖度で実需から高評価を得ている。しかし、近年、西日本を中心にべと病が多発。本県産地においても、べと病まん延防止のため、次により現地対応等が必要である。

べと病の発生環境

1 胞子の形成(分生胞子)

＜研究等により解明されている内容等＞

(1) 胞子形成: 気温 $6\sim 19^{\circ}\text{C}$ 、最適 $13\sim 15^{\circ}\text{C}$

(2) 胞子発芽条件: 気温 15°C 前後(最適)で湿度90%以上

(3) 胞子飛散: 通常100m、強風時は広範囲飛散

2 地域の環境等からの判断指標

気温が 15°C 前後で、高湿度状態(曇雨天)が1~2日続くようなら多発することを視野に入れることが肝要

べと病の発生確認調査

胞子形成条件等に応じ、迅速な現地対応が必要

○苗床

胞子発生(葉に白粉が噴いた感じ)

○生育初期症状(一次感染株)

健全株に比べ、草丈が低く、葉が黄色く湾曲

○生育後期症状(二次感染株)

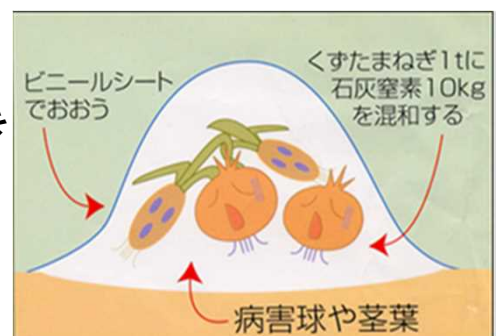
葉の一部が小判型に黄白色化



べと病罹病株の処理

べと病菌の飛散を防ぐため、罹病株の抜き取り時に、直ちにビニール袋に入れる。

罹病株1tに石灰窒素10kgを混和し、完全に腐らせる。



タマネギべと病の薬剤対応について

育苗中

- 気温が高く、曇雨天が続き、発病の恐れのある時は、約2～3週間毎に保護剤のマンゼブ、TPN、シアゾファミド剤などを散布
- 本田定植前にフルアジナムを散布
- 発病後は発病苗を処分し、治療剤のアゾキシストロビンを散布

極早生・早生品種

【発病前】 定植後～2月中旬

- 本田定植の20～30日後から、保護剤のマンゼブ、TPN、シアゾファミド剤などを、20日に1回程度散布

【発病リスク上昇期】 2月下旬～3月下旬

- 2月下旬と3月下旬の2回、浸透移行性が強く治療効果の高い、メタラキシルMを含む剤を散布
- 3月上～中旬に、予防・治療効果のあるピラクロストロビンを含む剤や予防効果の高いアメクトラジンを含む剤を計2回程度散布

【2次感染期】 4月上旬～収穫期

- 4月上～中旬に、効果の高い次の成分を含む剤を計3回程度散布
アメクトラジン剤: 予防効果、マンジプロパミド剤: 予防・治療効果(あるいはベンチアバリカルブイソプロピル剤: 治療効果)、ピラクロストロビン剤: 予防・治療効果
- 加えて、周辺に中生、晩生がある場合は収穫前に治療剤のアゾキシストロビン剤を散布

中生・晩生品種

【発病前】 定植後～3月上旬

- 本田定植の20～30日後から、保護剤のマンゼブ、TPN、シアゾファミド剤などを、20日に1回程度散布

【発病リスク上昇期～2次感染期】 3月中旬～収穫期

- 3月中旬、予防効果の高いアメクトラジンを含む剤を散布
- 3月下旬と4月中旬の2回、浸透移行性が強く治療効果の高いメタラキシルMを含む剤を散布
- 4月上～中旬、4月末～5月上旬に効果の高い次の成分を含む剤を計4回程度散布
アメクトラジン剤: 予防効果、マンジプロパミド剤: 予防・治療効果(あるいはベンチアバリカルブイソプロピル剤: 治療効果)、ピラクロストロビン剤: 予防・治療効果

注意: ①薬剤は同じ剤を連用せずにローテーション散布する

②薬剤については混合剤が多いので、各成分の総使用回数が基準を超えないようにする

タマネギベと病の登録のある主な薬剤(H28年12月27日現在)

TPNを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ダコニール1000⑥	TPN⑥	-
ダコニールエース⑥		-
アミスターオブティフロアブル④		アゾキシストロビン④
ドーシャスフロアブル④		シアゾファミド④
ブリザード水和剤③		シモキサニル③
プロボーズ顆粒水和剤③		ベンチアバリカルブイソプロピル③
ワイドヒッター顆粒水和剤③		ベンチアバリカルブイソプロピル③
ベジセイバー④		ベンチオピラド④
フォリオゴールド③		メタラキシルM種子①播種後③ (計④)
アゾキシストロビンを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
アミスターオブティフロアブル④	アゾキシストロビン④	TPN⑥
アミスター20フロアブル④	-	-
シモキサニルを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ダイナモ顆粒水和剤③	シモキサニル③	アミスルブロム③
ブリザード水和剤③		TPN⑥
ホライズンドライフロアブル③		ファモキサドン③
ベトファイター顆粒水和剤③		ベンチアバリカルブイソプロピル③
カーゼートPZ水和剤③		マンゼブ⑤
アメクトラジンを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ザンプロDMフロアブル③	アメクトラジン③	ジメトモルフ③
ザンプロフロアブル③	-	-
ジメトモルフを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ザンプロDMフロアブル③	ジメトモルフ③	アメクトラジン③
フェスティバルM水和剤③		マンゼブ⑤
フェスティバルC水和剤③		銅
シアゾファミドを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ドーシャスフロアブル④	シアゾファミド④	TPN⑥
ランマンフロアブル④		-
ランマン400SC④		-
ベンチアバリカルブイソプロピルを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ベトファイター顆粒水和剤③	ベンチアバリカルブ イソプロピル③	シモキサニル③
ジャストフィットフロアブル③		フルオピコリド③
プロボーズ顆粒水和剤③		TPN⑥
ワイドヒッター顆粒水和剤③		TPN⑥
カンパネラ水和剤③		マンゼブ⑤
ベネセット水和剤③		マンゼブ⑤
マモロット顆粒水和剤③		-
		-
マンゼブを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ジマンダイセン水和剤⑤	マンゼブ⑤	-
ペンコゼブ水和剤⑤		-
グリーンダイセンM水和剤⑤		-
リドミルゴールドMZ③		メタラキシルM種子①播種後③ (計④)
フェスティバルM水和剤③		ジメトモルフ③
カーゼートPZ水和剤③		シモキサニル③
カンパネラ水和剤③		ベンチアバリカルブイソプロピル③
ベネセット水和剤③		ベンチアバリカルブイソプロピル③
		-
フルアジナムを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
フロンサイド水和剤⑤	フルアジナム	-
フロンサイドSC⑤	苗根部浸漬①散布 ⑤(計⑥)	-
フルオピコリドを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
ジャストフィットフロアブル③	フルオピコリド③	ベンチアバリカルブイソプロピル③
リライアブルフロアブル②		プロパモカルブ塩酸塩水和剤②
メタラキシルMを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
リドミルゴールドMZ③	メタラキシルM 種子①播種後③ (計④)	マンゼブ⑤
フォリオゴールド③		TPN⑥
ボスカリドを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
シグナムWDG④(定植直前苗浸 漬①、定植後③)	ボスカリド 定植前①定植後③ (計④)	ピラクロストロビン 定植前①定植後③ (計④)
マンジプロパミドを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
レーバスフロアブル②	マンジプロパミド②	-
ピコキシストロビンを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
メジャーフロアブル③	ピコキシストロビン③	-
フェンアミドンを共通で含むたまねぎべと病登録農薬		
農薬の名称	有効成分-1	有効成分-2
レイデン水和剤③	フェンアミドン③	ホセチル③

注) 農薬名、成分名の後ろの数字は総使用回数